

本を選ぶ

NO.481 2025年(令和7年)6月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<https://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>岐路とY字路 続々

●10代のための海外文学賞、始まっています！

●図書館員の地域活動その後 続

●8BOOKS SENDAI



ろん・ぼわん

岐路とY字路 続々

朝日新聞社は、土曜日の新聞夕刊発行を8月から休止すると6月3日付朝刊で発表。月曜から金曜日の夕刊は引き続き発行され、購読料は据置きだそう。いよいよ来たか。夕刊一面は題字変更でレイアウトがしやすくなったのか、写真が大きくなったりと明らかに見やすくなったと思う。だが、すでに地方紙の夕刊発行はほぼ休止、遠からず全国紙についても夕刊発行は朝日に限らず止まるだろう。

今回の土曜日の夕刊発行休止の理由は、人手不足が深刻化するとともに、休日確保や労働時間の適正化など働き方改革が社会的要請となっている、朝日新聞販売所の労働環境の維持・改善を図るため、などとひたすら社外の労働環境の維持を掲げてはいるが、要するに夕刊発行については赤字だからに違いない。まずは手をつけられるところから曜日を絞って休止し、いずれ夕刊全体の休止に向けて布石を打ったのであろう。率直にそう言えない苦しげな社告ではある。他の全国紙がどう追随するのか。

新聞社の経営改革は50年以上前の昭和40年代まで遡る。なかでも日本経済新聞社は他紙がためらうような思い切った改革を打ってきた。その中核こそコンピュータの導入である。当時、国鉄が列車の座席予約にコンピュータを利用し始め、銀

行や証券会社などの民間企業も事務処理の効率化をもとめてコンピューター化に着手し始めた。しかし新聞社は、コンピューターについては意外に動きが鈍いと言わざるを得ない。皮肉にも時代の風をいち早く読むべきはずの新聞各紙の対応が後手に回ったのは何故だったのか。毎日毎日の滞りない新聞発行という使命が事業体の経営改善の上に覆い被さる気風となっていたのか。

新聞社とは言っても地方紙と三大紙では規模が違う。全国紙である三大紙各社は数百万部を毎日発行する巨大印刷所を擁する事業体であるとも言える。三大紙でもない日本経済新聞社がどうしてコンピューター化にいち早く着手しそして成功したのかは、杉山隆男の労作を読めば、ほぼわかる。『メディアの興亡』(杉山隆男 著／四六判上製／文藝春秋／1986年)。

700ページ近くに及ぶボリューム、細かな活字の40年前のこの本は読みやすいとは言えないが、読み応えは十分。しかも単に日経のプロジェクトを追うノンフィクションではない。日経新聞と毎日新聞の動きを対比的に扱う手法で当時の新聞社と新聞人を描き出す。著者は読売新聞記者を経てノンフィクションライターとなった人だ。新聞社、新聞業界にも通じているのは当然だが、何より情熱にあふれている。

1973年、活字を使わない印刷システムCTS（コード・タイプ・システム）でつくる世界ではじめての日刊紙「日経産業新聞」が創刊された。(2024年3月に休刊)そして日経は、2010年3月に「日本経済新聞電子版」を創刊する。(埜村太郎)

10代のための海外文学賞、始まっています！

鳴川 浩子

最近、海外小説の発行が少ないように思うけど、訳者や編集者がコロナで海外に（買い付け？とか発掘？に）行けてなかったからかな、と勝手に何となく思っていた2024年GW。以前から何度か講演をお願いしていた翻訳家の三辺律子さんから一通のメールが届きました。翻訳YAが以前ほど読まれていない、盛り上げていくために翻訳YAの文学大賞を始めたいので協力してもらえないかという内容。あまりにありがたいお誘いに何かお役立てることがあるのなら、と二つ返事で引き受けました。そして三辺さんの行動力で、一般社団法人青少年読書推進機構が設立され、年明けに新たな文学大賞を開催することを発表できました。

「10代がえらぶ海外文学大賞」

魅力的な作品あふれる海外文学を、10代にもっと読んでもらいたい！そんな思いだけで生まれた文学大賞。だから、第1次選考は年齢制限なく、誰でも参加できるけれど、最終投票の権利は10代のみ。選考対象は10代が主人公の海外（翻訳）文学。10代が自分たち自身で選ぶ自分たちのための文学大賞です。

選考委員は6名。この賞を立ち上げた翻訳家の三辺律子さん。YA翻訳文学といえば元法政大学教授の金原瑞人さん。ダン・ブラウンの作品をはじめミステリー文学の翻訳を手掛ける越前敏弥さん（今回のみ、越前さんのかわりにフランス文学者の野崎敏さんが選考委員をしてくださいます）。『[文化の脱走兵](#)』（講談社/2024年）で読売文学賞を受賞し爆進中のロシア文学翻訳家の奈倉有里さん。蔦屋書店で文学コンシェルジュをしている河出真美さん。そして私立中高で専門・専任・正規で司書教諭をしている私（あれ？私、いつの間にかちゃっかり選考委員になってる！）。

他にも運営を担うスタッフとして実行スタッフが数名。10代が主役なので、学校図書館や公共図書館の支援や協力が肝。学校図書館司書や書店

員、編集者が裏方として支えています。

スタッフ、選考委員それぞれでオンラインミーティングやメール等でのやりとりを繰り返すこと数回。選考対象とする作品のことや投票方法を話し合いました。その中で決まった「選考委員の訳書・監修した本は対象外」という衝撃。でも、この賞を長く続けていくためには公平性は欠かせません。それに選考委員の訳書以外にも魅力的な海外文学はたくさんありますし、そもそも海外YA文学を盛り上げるための賞なので、選考委員の訳書として対象外でも薦めれば良いだけです。対象作品は10代が主人公なら物語に限らず、グラフィックノベルや絵本、古典新訳も含まれます。

第2次投票は9月から！応援図書館への登録もぜひ

本誌が発行される6月末は、第1次投票で選ばれた22冊から7冊のノミネート作品を選考中。同時に9月の第2次投票に向けて準備をしている時期です。参加を呼びかけるポスターや、ノミネート作品を紹介する小冊子も間もなく[HP](#)からダウンロードできるようになります。

全部読む必要はなく、1冊読んで面白かったらその本に投票でOK！と気軽に参加できる設定にしています。ぜひYA世代、10代の生徒・学生への参加の呼びかけをお願いします。

そしてそして小冊子作成等の運営費のためのクラウドファンディングも始まっています。最初の目標は達成しましたが、この賞を長く続けていくためにストレッチゴールを目指しています。ぜひご支援をお願いします（魅力的すぎるリターンを準備しました！）。

また、応援図書館への登録も始まっています。登録の公開・非公開は選べます。登録していただくと、ノミネート作品7冊のお知らせがいち早く届きますので、ぜひ登録をお願いします。

海外文学のスズメ

「海外文学を普段どれぐらい読んでいるでしょうか」

この一文は、選考委員の金原さんと三辺さんに講師として来ていただく、学校図書館問題研究会第40回全国大会東京大会（奈倉さんと逢坂冬馬さんの対談もあり、こちらの申し込みも絶賛受付中です）分科会の要項文の冒頭に書いた言葉です。主語は「司書は」でも「10代は」でもどちらにも受け取れるようにあえて付けていません。

毎月、発行する図書館の広報紙で新着本を紹介するとき、いろいろな分野になるようバランスを考えていますが、9類も913だけにならないようにしたいと考えています。でも、たまに紹介できる新着の海外文学がなくて、日本文学だけになってしまい反省することがあります。書店で、最近のYA海外文学を探すのに苦労することもあります。親しい（学校）図書館関係者から、海外文学はあまり読めていない、と言われたこともあります。

2015年から8年間、金原さんと三辺さん、イラストレーターのおザワミカさんが発行していた海外小説を紹介する冊子『BOOKMARK』の第1号で紹介されていた『郊外少年マリク』（マブルーク・ラディシュ作/中島さおり訳/集英社/2012年）を読んで、私は海外文学を読むことの大切さと面白さを改めて思い知らされました。パリ郊外に押し込められた移民の少年の半生を、ユーモアを交えて描いたこの作品によって、一見華やかなパリの郊外には不満を抱えて暮らす若者たちがいることを知りました。

つい最近読んだ『ガールズ・ルール』（キャンデイス・ブシュネル/ケイティ・コトゥーニョ作/三辺律子訳/静山社/2024年）では、アメリカでも日本でも、女子にだけ課されたルールは同じだとわかります。

『車いすでジャンプ!』（モニカ・ロー作/中井はるの訳/小学館/2023年）では、障がいとは何かを考え、関わっていく人の感情はどこ国でも同じだと、共感できる登場人物の誰かに出会えるのではないのでしょうか。

『住所、不定』（スーザン・ニールセン作/長友恵

子訳/岩波書店/2022年）を読めば、日本ではどこか人ごとになってしまっているような難民の方々の置かれた状況をリアルに理解し、自分ごととして捉えることができます。

『モノクロの街の夜明けに』（ルータ・セペティス作/野沢佳織訳/岩波書店/2023年）では、大統領の銃殺シーンが衝撃的だった1989年のルーマニア革命当時の暮らしの様子を知ることができ、遠いルーマニアの若者たちが日本の普通の10代と同じであったことに気付かされます。

数年前から「〇〇ファースト」という言葉が流行っています。そこに人々を分断するような出来事が重なり、内向き志向に拍車がかかっているように感じています。国内の作家にも海外を舞台にした魅力的な作品を書く作家はたくさんいます。でも、やはりその国で生きて生活をしている作者が、その国に生きる若者に向けて書いた物語だからこそその魅力とメッセージがあります。それが翻訳されて、日本の若者に届き、国境や時間を超えて、同世代の生活や文化を知り、自分たちと同じであることを知る。物語を通じて、世界と繋がりが広がってほしい。私が海外文学を10代にもっと読んでほしい、と思っているのはそんな願いからです。

渋谷のおしゃれなカフェで、三辺さん、金原さん、学芸大学附属世田谷中学校の学校司書の村上恭子さんとこの賞の設立に向けての話をしてから約1年。三辺さんの海外文学への熱い想いと行動力に、スタッフたちも同じ思いで突き動かされて、第2次投票へと突き進んでいます。

この賞が立ちあがるまでの過程を、私は一部しか知りませんが、スタッフも選考委員も同じ思いでいると思っています。

本誌を読まれた皆さんにも、この手作りの「10代がえらぶ海外文学大賞」を一緒に応援して、10



代を巻き込むことで参加していただきたいと願っています。ぜひ、一緒にこの賞を盛り上げてください。よろしくお願いします。

（なるかわ ひろこ：玉川聖学院）

図書館員の地域活動その後 続

—脳科学者による認知症講演会—

後藤 婉子

今年の2月に私の勤務している世田谷区立桜丘図書館が、地域活動として所属している経堂認知症アクションチームの協力を得るというかたちで、図書館の開館40周年記念の企画として認知症講演会を行った。

講師として講演してくださったのは、脳科学者で現在東京大学大学院総合文化研究科の特任研究員の恩蔵絢子氏で、アクションチームのメンバーの音楽療法士の方が、恩蔵氏の母上の認知症の音楽療法に携わったご縁から引き受けていただけたこととなった。

恩蔵氏は新進気鋭の脳科学者で、数年前に出版された『脳科学者の母が、認知症になるー記憶を失うと、その人は”その人”でなくなるのか？ー』(河出書房新社/2018年/のちに河出文庫/2021年)は図書館での予約も多く、話題の書という趣であった。そして今回は昨年の『認知症介護のリアルー笑いと涙の母娘の日々(そして時々、父も)ー』(信友直子氏との共著/ビジネス社/2024年)の出版もあり、アクションチームのメンバーが講演会をととても楽しみにしていたのはもちろんだが、反響も多く、講演会もあつという間に申込が定員に達した。

著書の内容を紹介すると、まず『脳科学者の母が、認知症になる』の方はそのものずばり、恩蔵氏の母上が2015年に認知症の症状が確認されてから3年間の、娘として脳科学者としての恩蔵氏の葛藤と受容の過程を綴ったものである。認知症の種類については、「アルツハイマー型」「レビー小体型」「前頭側頭型」「血管性」「その他(脳外傷や脳腫瘍、脳炎など多様な病気で起こるもの)」に分かれ、それぞれについて様々な症状が現れる。恩蔵氏の母上はアルツハイマー型としての診断だったのだが、家事を完璧にこなし、趣味も楽しんでいた母上がおかしな言動をするようになり、何もしないでソファにうずくまり、外出もしなくなってしまう状態を受け入れることができず、病

院で診断を受けるまで10カ月あまりかかってしまったのだった。

その後は葛藤しつつも、脳科学者として、認知症ではどんな行動が現れ、何が原因でそのような行動になるのか、脳科学の見地から考えることを試みる。「何かができる/できない」という視点で考えると、母が母でなくなっていくようで怖い。しかし、母の反応の中にはまだ変わらぬものもある。脳の働きの中でも特に感情を研究してきた恩蔵氏は、認知症がその人らしさに与える影響について図らずも考察することになり、その人らしさを失う病ではないという結論に至るのだ。

その後、2021年にこの本の文庫版が出版されるが、認知症に対する恩蔵氏の理解は基本的には変わっていない。しかし、母親の症状は進行しているので、驚きや怒りの感情をコントロールして必死で対応するという局面は当然ながら出てくるので、その都度考えて適応し直すということになるわけである。文庫本のあとがきからは複雑な思いが感じられた。

それからさらに3年が経過し、2024年8月に映像作家の信友直子氏との対談『認知症介護のリアル』を出版することとなる。残念なことに、恩蔵氏の母上は2023年5月に亡くなられており、この本の対談は2024年3月に行われているので、まだ悲しみが癒えていないという心境を文中で吐露している。

信友氏は2018年に両親の老老介護を記録した初の劇場公開作『ぼけますから、よろしく願います。』(2022年には続編『ぼけますから、よろしく願います。～おかえりお母さん～』を発表、同名の著書が新潮社からそれぞれ2019年、2022年に出版されている)を発表しており、この本でまさに認知症のリアルを恩蔵氏と語り合っている。そして、認知症の人の言葉や行動を見るのではなく、気持ちを見るのが大事という気持ちに至ったこと、介護を通じてたくさんのものをもらったの

で、それを研究や映像、文章で多くの人に発信していければとの思いを持ったと語っている。これらの著作を読んだ上で迎えた講演会だったのだが、恩蔵氏は「若くて元気かわいい！」を絵に描いたような方であった。講演の内容は、上記の著作の内容をライブで語るというものだったのだが、それがパワーポイントの前を縦横無尽に動き回って講演するという、まさにライブ！というもので、参加者は認知症に関心のあるお年頃、多分、平均年齢75歳くらいと推察されるような方々だったので、圧倒され、惹きつけられたのではないかと思われた。

■ 8BOOKS SENDAI ～2025年2月に訪問～

最近あちらこちらで目にするようになったブックカフェやブックラウンジ。利用者も増え、話題になっています。今回は、宮城県仙台市の「[8BOOKS SENDAI](#)」さんを訪れました。市の中心部から少し離れた、落ち着いた八本松（施設名由来）にあります。少し施設のご紹介をします。

*本の貸出はありません。

*小学生以上は有料です（利用しやすいように工夫された料金）。

*1階は広々としたスペースに壁一面本が並び、ワクワク感必至。ゆったりとくつろげるソファ、集中したい時にぴったりのプライベートブース席、背もたれのしっかりとしたオフィスチェア等々、迷い

私自身の心に残ったのは、恩蔵氏が恐れていたのは、「買い物ができなくなった」「料理をしてくれなくなった」等、母上が自分に何をしてくれるかという能力、自分にとっての便利さで見ていることに気づき、そうでないところで、母上を知ろうとしようと考えたという話で、現在認知症進行形の母に対してまさに自分がそう考えていたことに気づかされ、目から鱗が落ちる思いだった。久しぶりの本の著作者による講演会はとても有意義なものだった。これからも図書館として開催の機会を作れればと思う。（ごとう わかこ）

そんな設え。ドリンクコーナーもあり。

*2階は親子や家族でゆっくり過ごせる安全と安心に配慮された北欧家具がすっきりおしゃれなフロアになっていて、こんな施設が近所にあつたらいいなと思わせてくれます。飲食やおしゃべりができるスペース、授乳室やおむつ替えシートも完備。子供たちがあちこちで楽しく遊べたり、読書できる仕掛けもステキに！！

*選書は専門家のセレクトだそうで、配架は分類だけでなく色々な意味での関連性にも配慮しているそうです。

「運命の一冊」に出会えるかもしれません！

1万冊の蔵書が皆さんの楽しい、そして価値ある時間を待っているようでした。（LAS探検隊）

DMかたろぐ

ジャニス・プーン 著 加藤輝美 訳

ハンニバル・レクター博士の優雅なお料理教室

発売即重版!



マッツ・ミケルセン主演、衝撃のサイコサスペンス「HANNIBAL／ハンニバル」のフードスタイリストが紹介する、戦慄のレシピ集。 3630円

晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

ESTRELA

■2025年6月号
No.375/6月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税込)

【特集】住宅・土地統計調査結果の利活用

■令和5年住宅・土地統計調査結果の概要等について／
総務省統計局 国勢統計課

■住宅・土地統計調査を活用した空き家・災害リスクのミクロ評価と政策展開への展望／
秋山 祐樹(東京都大学建築都市デザイン学部都市工学科 教授)

■世帯要因からみる日本の空き家問題:住宅・土地統計調査の個票データを用いて／
鈴木 雅智(横浜国立大学データサイエンス学部 准教授)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5階
TEL: 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>

サラ・K・ポール
萬屋博喜 訳

行為の哲学入門

現代の行為論を、中心問題から新しい話題まで明快に整理。 3080円

数土直紀・山田真茂留 編
天田城介・山根純佳 著

アカデミックナビ 社会学

読むほどに社会についての理解が深まる、
最良の手引き書！ 3300円



勁草書房 TEL 03-3814-6861 *価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

衛星データ vs 大衆文化

終わりが
ないから
面白い
宇宙考古学へようこそ

エジプト・中国
古代文明

宇宙考古学への招待
恵多谷雅弘 著

定価 2,750円 (税込)
ISBN : 978-4-389-50160-0

歌舞伎って高尚な芸術？
いいえ違います！

物語の背景を
知れば歌舞伎は
もっと面白くなる！



究極の歌舞伎入門書

定価 1,980円 (税込)
ISBNコード : 978-4-389-50159-4

学びと教育の未来をめざして
清水書院



混沌とした現代の国際社会を読み解くために、
いまこそ世界史的な視点で
明治維新をとらえ直す！

幕末維新期に
欧米列強、東アジア諸国では
なにが起きていたのか？



幕末維新史 への招待

国際関係編 町田明広 編



山川出版社 四六判 定価1,980円(本体1,800円+税10%)

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-13-13 <https://www.yamakawa.co.jp/>

A・G・ホプキンス 著

菅 英輝/森 丈夫/中嶋啓雄/上 英明 訳



アメリカ 帝国 上下

グローバル・ヒストリー

A5判上製カバー 【上】560頁 6600円／【下】372頁 6050円

上巻では「植民地」から「帝国」へと至る道程を描き、
続く下巻では巨視的な観点で「島嶼帝国」の全貌に迫る。

帝国の実像とは。

ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL075-581-0296 ※価格税込

はじめての子ども論

元森絵里子 著

「子ども」に関する私たちの常識はどこからきたのか？ 欧米と日本の近代化に沿い、保護され教育される存在へと変わりゆく過程を解説。多様な現実や、議論の変遷を社会学の視点で掘り下げ、子どもにまつわる政策論や実践を背景から読み解く力を身につける。

有斐閣ストゥディア A5判 定価 2420円



これからの図書館情報学

山本順一・前川和子・松戸宏予 編

人々の苦境・多くの社会課題と、デジタル社会に向けた大きな変化のなかで、図書館に課せられた役割とは。社会基盤の一つとしての公共図書館の機能・課題を整理し、先進事例も多数紹介。新しい時代・社会における図書館の可能性を学び、考える。

y-knot 四六判 定価 2200円



人工知能と
共生する図書館



有斐閣 東京都千代田区神田神保町2-17
<https://www.yuhikaku.co.jp/>

価格は
税込

摂食症治療の すすめ

7月中旬刊

その実践(仮題)

永田利彦 [著] (なんばながたメンタルクリニック)

●予価3080円(税込) 978-4-535-56439-8

診断は容易だが、治療がむずかしい摂食症。
経験豊かな摂食症治療第一人者が書き下ろす、
医師・心理士向けの実践向け治療ガイド。



GDP推計の 新たな展開

菅 幹雄 [編著]

日本で新たにGDP統計の
基盤となる供給・使用表
を徹底解説。

供給・使用表の概念とその応用

●予価2970円(税込) ISBN 978-4-535-54112-2

8月中旬刊



日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎03-3987-8621 <https://www.nipponyoko.co.jp>